

教員意識調査

2023. 10. 26

「教員の意識に関する調査2023」というものがある。全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生方を対象にした調査である。

教員になりたいと思った理由に関しては、1位が「教えることが好きだから」40.1%、2位が「子どもが好きだから」36.7%、3位が2つある。「尊敬する教員・憧れる教員に出会ったから」30.0%、「収入が安定しているから」30.0%となっている。

時代は変わっても教員になりたい理由上位4つは、上記のものだろう。私の推測に過ぎないが、尊敬する教員・憧れる教員との出会いの割合は下がっているのではなかろうか。多くの子どもたちは、自分が将来就く仕事を経験できないままに、社会に出ていく。だが、教員は違う。子どもたちの目の前には、いつも自分がやろうとしている仕事をしている人がいる。見ることができる。そう考えると、教員は他業種に比べて、かなりのアドバンテージをもっていることになる。ところが、約3割である。

安定した収入も、一定の割合で理由の上位にくる。しかし、本当にこれが一番の理由だとしたら、教員をやっていくのはむずかしいのではなかろうか。教員になった理由は、そうだったとしても、子どもの成長を感じたり、子どもの笑顔を見たり、子どもと感動を分かち合えたりしているうちに、教員っていいなあと思うようになるのではないか。だから、離職率が低いのではないか。

この調査では、やりがいを感じるときも聞いている。上位3つは、子どもの成長69.0%、子どもの笑顔55.6%、子どもとの感動49.9%となっている。教員は、やりがいを感じやすい仕事の一つである。

野田中学校に、こんな生徒がいる。その生徒は、特に数学の時間になると、積極的に発表している。グループでの教え合いになると、わからない生徒にいつも丁寧に教えている。これは簡単なことではない。本当に理解していないとできることではない。その生徒に、将来はどんな仕事に就きたいかを聞いてみた。教員になりたいという。小学校か中学校か高校かを聞いてみた。中学校の数学だという。なるほどである。その生徒は、すでに教えることが好きなのである。この生徒にとって、グループでの教え合いを取り入れている数学の授業は、ぴったり当てはまったようである。これも、教員との出会いと言えるかもしれない。

この調査では、教員の仕事で苦勞していることも聞いている。授業の準備、保護者とのコミュニケーション、学校行事の準備・運営が上位にくる。これらは、これから進むであろう働き方改革により、多少は減らせる見込みである。

授業の中で、生徒に、自分は「教えることが好き」なんだと認識させるような授業をもっとすればいいのではないか。そんなことも考えた。教え合いにより、学力も向上していく。前述の数学の授業がそうである。その授業の中心に、中学校数学科教員を目指す生徒がいる。